

韓国語の「가다」との結びつきから見た 「-에」, 「-로」, 「-를」

李 善 姫 (い・そに)

1.はじめに

1.1. 研究目的

本稿は、「-에 가다」, 「-로 가다」, 「-를 가다」が実際の言語資料にどのように現れるかを考察し、位置変化を表す動詞と結びつく「-에」, 「-로」, 「-를」の違いを明らかにしようとするものである。

「가다 (行く)」は「ある場所からある場所へ移動する」ことを表す動詞である。

- (1) 이곳에서 스위스 샹페리로 가는 것이 가장 쉽다. (BGAF 0052)
ここからスイスのシャンペリーへ行くのが一番簡単だ。
- (2) 아르바이트가 없는 날과 주말은 조르주 뽁뽁두 센터의 도서관에 갔다. (BGEO 0294)
アルバイトのない日と週末はジョルジュ・ポンピドゥーセンターの図書館に行った。
- (3) 황은 어디를 갔을까. (BGEO 0294)
黄はどこに(へ)行ったのだろうか。

(1)は移動体が「이곳 (ここ)」という出発点から、「스위스 샹페리 (スイスのシャンペリー)」という到着点に位置変化することを表している。(2)の「도서관 (図書館)」, (3)の「어디 (どこ)」も到着点を表し、移動体の位置変化を表している。

ところが、(1)~(3)を見ると、(1)の「스위스 샹페리로」, (2)の「도서관에」, (3)の「어디를」は「-로」⁽¹⁾, 「-에」, 「-를」⁽²⁾と、それぞれ異なる格助詞で現れているにもかかわらず、3つとも到着点を表しているのである。それでは、「가다」と結びついて到着点を表すこれらの名詞句は、実際の使用において、果たして全く同じ現れ方をするのであろうか。

本稿では、実際の言語資料において、「-에 가다」, 「-로 가다」, 「-를 가다」がどのように現れるかを、「가다」と名詞句との結びつきのみならず、アスペクト、ムードなどの観点からの考察を加え、その違いを明らかにすることを目的とする。

1.2. 先行研究

이남순 (1983) は統辞論的な観点から「-에」と「-로」の意味を考え、「-로」は単なる移動を表す

が, 「-에」は到着後の行為も内包していると述べている。

정희정 (1998) は, 「-에」を中心に「-로」と「-를」の考察を行い, 「-에」は主体の‘目標点’を表すが, 「-로」は方向と経由の意味を表すとしている。そして, 「-에」は‘目標点’がある方向を意味するが, 「-를」は方向性がなく, その場所内で移動行為が行われる意味として使われるのに対して, 「-에」は‘目標点’のある方向を意味し, その場所に到着することのみを意味するので, その場所の一部分のみを必要とすると述べている。

さらに, 홍재성 (1987) は「타다 (乗る)」と結びつく「-에」と「-를」に注目し, 構文分析を行った。そして「-를」を「統辞的機能を表現する場合」と「談話論的機能を表現する場合」とに分け, 「차를 탔다 (lit. 車を乗った)」の「-를」は目的語成分で, 「시장을 갔다 (lit. 市場を行った)」の「-를」は談話論的な機能をもつ様態助詞の一つとして, 強調の様態的意味 (sens modal) を持つものとしてとらえるべきであるとしている。

以上の先行研究を総括すると, 「-에」, 「-로」, 「-를」の意味機能を規定することに重点が置かれており, 実際にそれぞれの格助詞がどのような現れ方をするのかは明確ではない。そこで, 本稿では従来 of 先行研究を踏まえたうえで, 「가다」と結びつく「-에」, 「-로」, 「-를」が実際の言語資料において如何に現れるか, さらにそれぞれの結びつきが現れる構文的な特徴はないのかを考察することにする。

1.3. 研究方法と言語資料

本稿は, 実際の言語資料において, 韓国語の「가다」が名詞句とどのような結合の様相を見せるのかという単語結合論的な観点からのアプローチを行う実証的な研究方法を用いる。

研究に用いる言語資料は, 국립국어연구원 (2007) の「21 세기 세종계획 균형말뭉치」の「構文分析コーパス」である。考察対象とした用例は, 人などのように自分の意志で移動行為をコントロールできる友情者が主体として現れる用例に限る⁽³⁾。必要に応じて「構文分析コーパス」以外の「21 세기 세종계획 균형말뭉치」のコーパスからの用例を取り上げることもあるが, 統計の対象には入れない。

2. 「가다」と名詞句との結合頻度

2.1. 言語資料に現れた「가다」と結びつく名詞句

言語資料から採集した用例は 1,201 例で, それぞれの用例における「가다」と名詞句との結びつきを調べた結果は表 1 の通りである。

表 1 「가다」の格結合頻度

	-에			-로	를	-에 게 ⁽⁴⁾			その他 ⁽⁵⁾	φ ⁽⁶⁾	計
	-에	-에 를	-에 도			-에 게	-에 게로	-에 게를			
頻度	328	15	3	247	86 ⁽⁷⁾	14	8	1	44	462	1208 ⁽⁸⁾
%	27.2%	1.2%	0.2%	20.4%	7.1%	1.2%	0.7%	0.1%	3.6%	38.2%	100%
	28.6%					2%					

全用例 1,201 例の内, 「-에」と結びついた用例が 328 例 (28.2%), 「-로」と結びついた用例が 247 例 (20.4%), 「-를」と結びついた用例が 86 例 (7.1%) の頻度を示しており, 「가다」は主に「-에」, 「-로」, 「-를」と最も多く結びつく動詞であることが分かる。

本稿では, 「-에」, 「-로」, 「-를」の結びつきの違いを中心に考察するので, 「-에」, 「-로」, 「-를」の 3 つの格助詞が現れた用例に焦点を当て, 考察を進めることにする。

2.2. 各名詞句に現れる名詞のカテゴリーによる分類

採集した用例から, 「가다」が結びつく名詞句に現れる名詞を見ると, 次のようなカテゴリーに分類することができる⁽⁹⁾。

- ・「場所名詞」: 가게 (店), 공원 (公園), 집 (家), など
- ・「方向・位置名詞」: ~쪽 (~の方), ~앞 (前), ~뒤 (後ろ), など
- ・「団体・事柄名詞」: 학교 (学校), 군대 (軍隊), 위원회 (委員会), など
- ・「営為名詞」: 여행 (旅行), 피난 (避難), 출장 (出張), など
- ・「抽象名詞」: 저 세상 (あの世), 극락 (極楽), 정신세계 (精神世界), など
- ・「物名詞」: 의자 (椅子), 캐비닛 (キャビネット), 침대 (ベッド), など

上の分類によって, 「가다」と結びつく名詞句に現れる名詞別の頻度を調べた結果は表 2 の通りである。

表 2 各名詞句に現れる名詞の頻度

	에		로		를	
	回数	割合	回数	割合	回数	割合
場 所 名 詞	270	82.4%	196	79.4%	38	51.4%
方向・位置名詞	8	2.4%	33	13.3%	0	0%
団体・事柄名詞	41	12.5%	4	1.6%	8	10.8%
営 為 名 詞	0	0%	0	0%	28	37.8%
抽 象 名 詞	8	2.4%	10	4.1%	0	0%
物 名 詞	1	0.3%	4	1.6%	0	0%
計	328	100%	247	100%	74	100%

全体的に場所名詞との結びつきが最も多いのは共通しているが, 「-에」は団体・事柄名詞と, 「-로」は方向・位置名詞と, 「-를」は営為名詞との結びつきも多く見られ, それぞれ異なる側面を見ている。

以上, 「가다」と結びつく名詞句, また, それぞれの名詞句に現れる名詞のカテゴリーによる結合頻度を調査した。以下では, まず, 結合頻度において同じような分布を見せている「-에」と「-로」を考察する。次に「-에」と「-로」とは異なる結合頻度を見せている「-를」を「-에」と共に考察し, どのような違いが見られるかを示すことにする。

3. 「-에 가다」と「-로 가다」

「-에 가다」と「-로 가다」に現れる名詞のカテゴリー別の結合頻度を再度示す。

表3 「-에」と「-로」に現れる名詞

	에		로	
	例数	割合	例数	割合
場 所 名 詞	270	82.4%	196	79.4%
方 向 ・ 位 置 名 詞	8	2.4%	33	13.3%
団 体 ・ 事 柄 名 詞	41	12.5%	4	1.6%
営 為 名 詞	0	0%	0	0%
抽 象 名 詞	8	2.4%	10	4.1%
物 名 詞	1	0.3%	4	1.6%
計	328	100%	247	100%

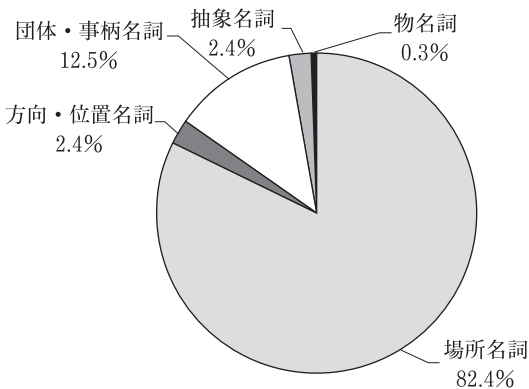


図1 「-에 가다」に現れる名詞

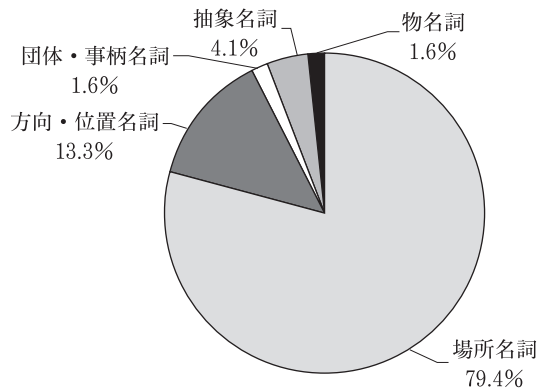


図2 「-로 가다」に現れる名詞

「-에 가다」と「-로 가다」に現れる名詞には、場所名詞が最も多く現れるが、その次に、「-에 가다」には「団体・事柄名詞」が、「-로 가다」には「方向・位置名詞」が多く現れる。

以下では、「-에 가다」と「-로 가다」の現れ方を考察する。

3.1. 「場所名詞」が現れる場合

「(場所名詞)에 가다」の用例が270例(82.4%)、「(場所名詞)로 가다」の用例が196例(79.4%)と、最も多く現れる例である。

이남순(1983)は、「-로」は単なる移動を表すが、「-에」は到着後の行為も内包していると述べている。また, 정희정(1998)も「-에」は主体の‘目標点(到達点)’を表すが、「-로」は方向と経路の意味を表すとしている。しかし, 実際に「(場所名詞)에 가다」と「(場所名詞)로 가다」の用例を見ると, 次のように両方とも移動体の位置変化を表している例が多くみられる。

- (4) 점호가 끝나자마자 운충은 탈춤만 선배이기도 한 같은 과의 4학년 방에 갔다. ~(著者中略)~ 선배는 운충에게 역사의 진실과 젊은이의 책무에 대해 낮은 목소리로 얘기했다. (BGEO 0077)
点呼が終わるや否やウンチョンはタルチュムサークルの先輩でもある, 同じ学科の4年生の部屋に行った。先輩はウンチョンに歴史の真実と若者の責務について低い声で語った。
- (5) 학교를 나온 우리는 주방아저씨를 앞세우고 중국집으로 갔다. 그곳에서 소희와 정님이 기다리고 있었다. (BGEO0077)
学校を出た私たちは, 厨房のおじさんを先に立たせて中華料理屋へ行った。そこでソヒとチョンニムが待っていた。

「(場所名詞) 에 가다」が現れている(4)は, 到着点の「4학년 방 (4年生の部屋)」に位置変化したことを表しており, 次に「선배는 운충에게 역사의 진실과 젊은이의 책무에 대해 낮은 목소리로 얘기했다. (先輩はウンチョンに歴史の真実と若者の責務について低い声で語った)」という, 到着点の状況が描写されている。「(場所名詞) 로 가다」が現れている(5)も, (4)と同じく「중국집 (中華料理屋)」に位置変化したことを表している。それは, 次に続いている「그곳에서 소희와 정님이 기다리고 있었다 (そこでソヒとチョンニムが待っていた)」という, 到着点の状況描写で確認することができる。このような例を見ると, 「-에」と「-로」に場所名詞が現れる場合, 両方とも移動体が位置変化した到着点を表しており, 実際の使用においては, 二つに大きな意味の差はあまり見られないことが多いことが分かる。

3.2. 「方向・位置名詞」が現れる場合

表2からも分かるように, 「(方向・位置名詞) 에 가다」の用例が8例(2.4%)であるのに対して, 「(方向・位置名詞) 로 가다」の用例は33例(13.4%)と, 「-로 가다」に「方向・位置名詞」が多く現れる。このような頻度から, 「-에」より「-로」の方が方向性が強いことが分かる。

정희정 (1998) も, 「-로」は方向を表すので, 方向だけを指定する「나는 동쪽으로 갔다 (私は東の方へ行った)」のような結びつきが出来るが, 「-에」は目標点を必要とするので, 方向だけを指定する「나는 동쪽에 갔다 (私は東の方に行った)」のような結びつきはないと述べ, 「-로」が方向を表すことを示している。

しかし, 次の(6)(7)のように「-에」に方向を表す名詞が現れる例が見られる。

- (6) 그사이 美洲를 횡단하여 동쪽에 갔다가 다시 이 中部에 오기까지 만난 사람도 많고 본 것도 많고 좀 배운 것도 있다면 있겠지요. (Ch 000100)
その間, 美洲を横断して東の方に行って, またこの中部に来るまで出会った人も多く, 見たものも多く, 少し学んだのもあるといえあるでしょう。
- (7) 동쪽에 가서 먹고 서쪽에 가서 잔다는 뜻. (5 BH 00001)
東に行って食べて西に行って寝るという意味。

実際の用例を見ると、「-로」の方に方向・位置名詞が多く現れる傾向を見せているものの、「-에」にも方向・位置名詞が現れることが分かる。

3.3. 「団体・事柄名詞」や「抽象名詞」が現れる場合

団体名詞や事柄名詞が「-에」と「-로」に現れる例だが、「(団体・事柄名詞)에가다」の例が41例(12.5%),「(団体・事柄名詞)로가다」の例が4例(1.6%)で、「(団体・事柄名詞)에가다」の方が多い。

- (8) 공부를 열심히 해서 일류 대학에 가고, 사회의 지도층이 된다. (BGBF 0250)
勉強を一所懸命して、一流大学に行って、社会の指導層になる。
- (9) 인문계는 도저히 적응이 안돼 실업계로 가야겠다는 것이었다. (BGBZ 0073)
人文系はとても適応できなく、実業系へ行くということだった。

団体名詞や事柄名詞は、「-로」よりは「-에」に多く現れる傾向は見せるものの、(8)は「일류대학(一流大学)」に進学することを、(9)も「실업계(実業系)」の学校に進学することを表し、同じような意味を表しているように見える。ただし、(9)は「인문계(人文系)」ではなく、「실업계(実業系)」を選択するという意味が含まれていると考えられる。(8)の「-에」を「-로」に換えることは難しく、団体名詞が現れ、ある団体の一員になることを表す場合は、「-에」の方が自然であると考えられる。

抽象名詞が現れる場合、次のように二つの意味の差はそれほど感じられない。

- (10) 가지더라도 부디 저 세상에 가서나 좋은 데서 살도록 하오. (BGGO 0358)
お行きなっても、どうかあの世に行っても良いところで住むようにしてください。
- (11) 그것은 정말 하면 이 지긋지긋한 지옥에서 벗어나 극락으로 갈 수 있기 때문이었습니다. (BGGO 0098)
それはうまくいけばこの懲り懲りした地獄から抜け出して、極楽へ行けるからでした。

3.4. 「物名詞」現れる場合

物名詞が現れた次のような例がある。

- (12) 김형사가 그렇게 말하며 캐비닛에 가서 오래된 서류철을 뒤적이기 시작했다. (BGEO 0318)
金刑事がそう言いながらキャビネットに行き、古い書類束をめぐり始めた。
- (13) 우리는 긴의자로 가서 털썩 주저앉았다. (BGEO 0320)
私たちは長椅子へ行き、どっかりと座り込んだ⁽¹⁰⁾。

(12)(13)のような例は少ないが、「-에」にも「-로」にも物名詞が現れ、到着点として現れることもある。

この場合は、物名詞は場所名詞としてはたらしき、物がある場所を表すだろう。

3.5. 従属節に現れる「-에 가다」と「-로 가다」

3.1 から 3.4 まで見てきたように、「-에 가다」と「-로 가다」はほぼ同じ意味を表しているが、それは従属節でも確認することができる。まず、「어서」節を見よう。

(14) 경심이와 친구는 동대문 시장에 가서 경심의의 옷을 두어 벌 샀다. (BGEO 0320)

キョンシムと友達は東大門市場に行つて, キョンシムの服を2, 3着買った。

(15) 어떤 아이는 참새 잡는 고무총을 가져다 주고, 어떤 아이는 자기네 밭으로 가서 수염이 달린 옥수수를 꺾어 주기도 했습니다. (BGGO 0098)

ある子はスズメを捕るゴム銃を持ってきてくれて、ある子は自分の家の畑へ行つて, ひげがついているトウモロコシを取つてくれたりもしました。

(14)(15)の用例における従属節は、全て到着点への位置変化を表し、主節は位置変化した場所での動作を表す。「어서」節に「-에 가다」が現れた例は 78 例 (23.8%), 「-로 가다」が現れた例は 28 例 (11.3%) で、「-에 가다」の方が多く現れるが、両方とも主節の動作が行われる場所を表している。

次の条件節でも同様なことが確認できる。

(16) 간디의 정신 인도 (印度) 봄베이에 가면 간디 선생이 18 년간 살던 집이 있다. (BGHO 0431)

ガンジーの精神, インドのボンベイに行けば, ガンジー先生が18年間住んでいた家がある。

(17) 부엌으로 가면 부엌 벽에, ~ (著者中略) 그애의 환영이 따라붙고 있었다. (2 CE 00010)

台所へ行けば台所の壁に, ~ あの子の幻影が追い付いていた。

(16)(17)の従属節は、それぞれの到着点である「인도 봄베이 (インドのボンベイ)/ 부엌 (台所)」への位置変化を表し、主節は位置変化した場所の状況が描写されている。

ただし、ある場所につくための行き方を描写する際には、次のように「-로 가다」が多く使われる。

(18) 오른쪽으로 가면 안국역, 왼쪽으로 가면 경복궁역이 나온다고 아주머니가 알려주었다. (2 CE 00012)

右へ行けば安国駅、左へ行けば景福宮駅に出ると、おばさんが教えてくれた。

(19) 영산포역에서 호남선 철길을 따라 서쪽으로 가면 구진포나루가 나온다. (3 BA 00 A 05)

梁山浦駅から湖南線の線路を伝って西の方へ行けば九津浦渡し場に出る。

3.6. 他の文成分との共起

이남순 (1983) は、「학교에 가다 (学校に行く)」は学校に到着した後の行為、つまり学校に行くの

だけが目的ではなく、学校に行って、勉強する行為も内包されているが、「학교로 가다」は単なる身体的移動のみを表すとしている。もし、「-로」が単なる身体的移動のみを表すのであれば、目的を表す句との結びつきは難しいだろう。ところが、実際の用例からはそのような差はあまり見られない。

(20) TV 나 컴퓨터가 없는 것은 물론, 외부로 전화를 한번 하려면 마을에 하나뿐인 전화실 우체국에 간다. (BGBF 0250)

テレビやコンピューターがないのはもちろん、外部に一度電話をしようとする、町に一つしかない電話を使いに郵便局に行く。

(21) 나는 조금 김이 썩지만 내친걸음이라 회사 앞 술집으로 그를 만나러 갔다. (BGEO 0077)

私は少し興ざめたけど、ついでだから会社の前の飲み屋へ彼に会いに行った。

上の用例を見ると、「-에 가다」も「-로 가다」も目的を表す語句との結びつきが自然である。本稿で考察した用例の中にも、(20)(21)のように目的を表す句と結びついた用例は、「-에 가다」が11例、「-로 가다」が11例あり、両方とも目的を果たすための目標地点を表せることが分かる。

3.7. 「가 있다」形式と結びつく「-에」と「-로」

정희정 (1998) には、「-로」は目標点に到達した後にその状態が持続する位置を表すことが出来ないと述べられている。もし、「-로」が目標点に到達した後にその状態が持続する位置を表すことが出来ないのであれば、到着点への位置変化が完了し、移動体が位置変化した場所に存在していることを表す「가 있다 (行っている)」との結びつきは難しいだろう。しかし、実際の用例を見ると、次のように、「-로」は「-에」と同様に位置変化後の結果が継続する場所を表すことができる。

(22) 시누이 결혼과 시아버지 칠순이 겹쳐 한달 예정으로 한국에 가 있는 남편의 메시지. (BGEO 0294)

義理の姉妹の結婚と舅の古稀のお祝いが重なって、一か月の予定で韓国に行っている夫のメッセージ。

(23) 너희들은 배를 타고 먼저 건너편으로 가 있거라. (BGEO 0318)

お前たちは船に乗って先に向こう側へ行てろ。

(24) (著者前略) ~이미 아이들은 시댁으로 가 있었다. (3 BB 00 D 04)

既に子どもたちは夫の実家へ行っていた。

「-에」が現れている(22)も、「-로」が現れている(23)(24)もそれぞれの到着点への位置変化が行われ、その変化の結果が継続していることを表している。このような例から「-로」も「-에」と同様に位置変化の結果継続を表せることが分かる。

4. 「-에 가다」 と 「-을 가다」

「-에 가다」と「-를 가다」に現れる名詞のカテゴリー別の結合頻度を再度示す。

表 4 「-에」と「-를」に現れる名詞

	에		를	
	例数	割合	例数	割合
場 所 名 詞	270	82.4%	38	51.4%
方 向・位 置 名 詞	8	2.4%	0	0%
団 体・事 柄 名 詞	41	12.5%	8	10.8%
営 為 名 詞	0	0%	28	37.8%
抽 象 名 詞	8	2.4%	0	0%
物 名 詞	1	0.3%	0	0%
計	328	100%	74	100%

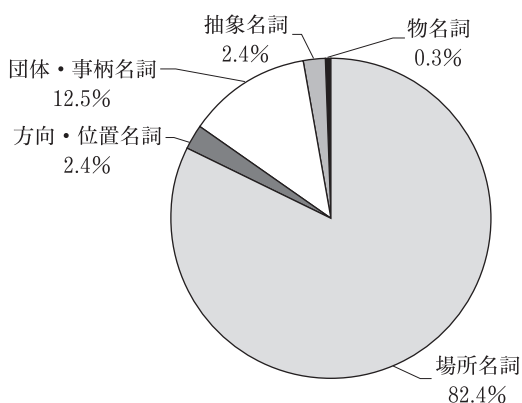


図 3 「-에 가다」に現れる名詞

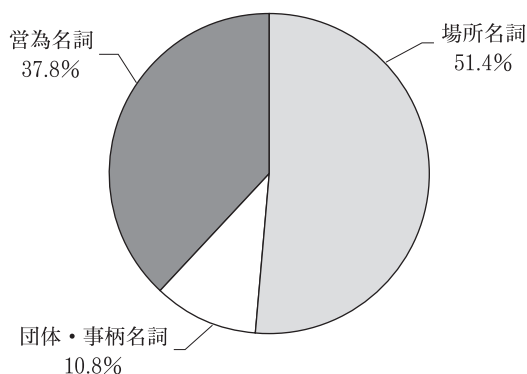


図 4 「-를 가다」に現れる名詞

「-에 가다」と「-를 가다」に現れる名詞には、場所名詞が最も多く現れる。その次に、「-에 가다」には「団体・事柄名詞」が、「-를 가다」には「営為名詞」が多く現れ、顕著な違いを見せている。以下では、「-에 가다」と「-를 가다」について考察を行う。

4.1. 「場所名詞」が現れる場合

「(場所名詞) 에 가다」の用例は 328 例中 270 例で 82.3%と非常に高い頻度を表している。「(場所名詞) 를 가다」の用例も 86 例中 38 例で 51.4%を示している。

- (25) 다음 날, 학교에 갔더니 아무도 모를 줄 알았던 어제 일을 누군가가 알고 선생님께 알려바친 모양이다. (BGBZ 0073)

次の日, 学校に行ったら, 誰も知らないと思っていた昨日のことを誰かが知って, 先生に言いつけたようだ。

- (26) 시장을 가려면 이 옹기전 앞을 지나야 된다. (BGHO 0431)

市場に行くなら, 食器屋の前を通らなければならない。

- (27) 전씨는 “ 그렇지만 곳은 일이라는 생각때문에 젊은이들이 서비스업종 등 편한 일만 찾아 이제는 어느 공사장을 가도 우리 또래는 볼 수가 없다” 고 말했다. (BGAA0164)

全さんは “ だけど嫌な仕事だという考え方のせいで, 若者たちがサービス業種など, 楽な仕事だけを探して, 今はもうどの工事現場に行っても 私たちの年代は見られない” と言った。

上の用例を見ると, 「(場所名詞) 에」と「(場所名詞) 를」は両方とも到着点であることを意味することが分かる。しかし, 「-에」に現れる場所名詞と「-를」に現れる場所名詞には差が見られる。「-에」に現れる場所名詞は「가게 (店), 갈비집 (焼き肉屋), 학교 (学校), 경기장 (競技場), 교무실 (教務室), 카페 (カフェ), 다방 (喫茶店), 목욕탕 (銭湯)」など具体的な場所 (174 種類) を表すのに対して, 「-를」に現れる場所名詞は, 具体的な場所もあるが, 「어디 (どこ)」のように, 場所が特定されていないものが多く現れる。

4.2. 「方向・位置名詞」と「物名詞」が現れる場合

3.2. でみたように, 「-에 가다」には次のように「方向・位置名詞」が現れることもある。

- (28) 그사이 美洲를 횡단하여 동쪽에 갔다가 다시 이 中部에 오기까지 만난 사람도 많고 본 것도 많고 좀 배운 것도 있다면 있겠지요. (Ch 000100)

その間, 美洲を横断して東の方に行って, またこの中部に来るまで出会った人も多く, 見たものも多く, 少し学んだのもあるといえましょう。

しかし, 「-를 가다」に「方向・位置名詞」が現れる例は見つからなく, 「-를 가다」には「方向・位置名詞」との結びつきが難しく, 「-에 가다」とは異なる点を見せる。

4.3. 「団体・事柄名詞」が現れる場合

「-에」にも「-를」にも「団体・事柄名詞」が現れることが出来る。

- (29) 대학에 가지 못한 사람들이 더 많은데도 대학 나온 사람을 우대하는 풍토가 바뀌지 않는 것도 그 때문이다. (BGHO 0373)

大学に行けない人たちがもっと多いのに, 大学を出た人たちを優待する風土が変わらないのもその理由からだ。

- (30) 대부분의 아이들이 미대를 가기 위해 일정한 교육을 받은 것에 비해 그는 고등학교도 시골 농고

를 나왔다고 했다. (BGEO 0294)

大体の子供達が美大に行くために一定の教育を受けるのに比べて、彼は高校も田舎の農業高を出たそうだった。

- (31) 처음으로 학교에 가는 것이 설레어서 지난 밤, 새로 산 크레파스를 꺼내어 동생하고 만져보고 하더니 빼놓고 간 모양이었다. (BGBZ 0073)

初めて学校に行くことにワクワクして、昨日の夜, 新しく買ったクレパスを出して, 弟と触ってみたりして, 置いておいて行ったようだった。

(29)の「대학 (大学)」は空間的な場所を意味するのではなく, “大学に入学する”, “大学生になる”ことを意味するのである。(30)も“美術大学に入学する”ことを意味するし, (31)も“入学して, 学生になる”ことを意味している。このような例から, 団体名詞が現れる場合, 「-에」と「-를」は同じ意味を表すことが分かる。

4.4. 「営為名詞」が現れる場合

「-에 가다」に現れる名詞と「-를 가다」に現れる名詞の中で最も特徴がみられるのが, 「-를 가다」に「営為名詞」が現れる場合である。

- (32) 가벼운 흥분 속에 전교생이 모두도 당당하게 응원을 갔다. (BGEO 0077)

軽い興奮の中, 全校生が足取りも堂々と応援に行った。

- (33) 여행을 가기 위해 10 만원씩 적금을 붓는 여성들도 있다. (BGAF 0052)

旅行に行くために 10万ウォンずつ貯金をする女性たちもいた。

- (34) 사진 기자와 함께 처음으로 출장을 갔다. (BGHO 0431)

写真記者と一緒に初めて出張に行った。

- (35) 일본에 와 얼마 동안 용훈의 하숙집에서 머물던 현우는, 어느 날 밤 용훈을 따라 음악회 구경을 갔다. (BGG0 0358)

日本に来てしばらくヨンフンの下宿で泊まっていたヒョンウは, ある晩の夜, ヨンフンについて音楽会の見物に行った。

「-를 가다」に現れる営為名詞には, 「여행 (旅行) / 유학 (留学) / 구경 (見物) / 이사 (引っ越し) / 낚시 (釣り) / 전학 (転学)」などのような名詞が多く現れる。これらの名詞は「여행하다 (旅行する) / 유학하다 (留学する) / 구경하다 (見物する) / 이사하다 (引っ越しする) / 낚시하다 (釣りする) / 전학하다 (転学する)」に換えることが出来る名詞である。用例の中には到着点を表す名詞句が現れた次のような例が多く見られる。

- (36) 68년 가족과 함께 미국으로 이민을 간 후 그곳에서 태권도를 보급했다. (BGAF 0052)

68年家族と一緒にアメリカに移民に行った後, そこでテコンドーを普及した。

- (37) 싱 스스로는 이사벨라에서의 교육 과정을 마친 후 영국으로 유학을 간다. (BGHO 0380)
シン自らはイサベラでの教育課程を終えた後イギリスへ留学に行った。

営為名詞が「-를 가다」に現れると、到着点を表す名詞句は「-를」で表すことは難しくなる。つまり、(36)の「미국으로」を「미국을」に、(37)の「영국으로」を「영국을」に変えることは難しいだろう。「-에 가다」には営為名詞が現れることは出来なく、「-를 가다」との大きな違いを見せている。また、「(営為名詞) 를 가다」の場合、到着点を表す名詞句が現れた例が8例あるが、8例中7例が「-로」で現れており、「(営為名詞) 를 가다」は「-에」より「-로」と結びつきやすい傾向を見せている。

4.5. 「物名詞」が現れる場合

物名詞が現れた次のような例がある。

- (38) 김형사가 그렇게 말하며 캐비닛에 가서 오래된 서류철을 뒤적이기 시작했다. (BGEO 0318)
金刑事がそう言いながらキャビネットに行き、古い書類束をめくり始めた。

1例であるが、「-에 가다」に「物名詞」が現れた例で、この「-에」を「-를」に換えて、「캐비닛을 가서」にすると、不自然な文になるだろう。このようなことから、「-를 가다」には「物名詞」が現れにくいことが分かる。

4.6. 他の文成分との共起と語順

「가다」が目的を表す句と結びつく場合は、「-를 가다」より「-에 가다」が多く現れる。

- (39) (著者前略)~서울대 병원에 피 팔러 가는 사내들 때문에 한 번. (BGAE 0200)
ソウル大学病院に血を売りに行く男たちのために一度。
(40) 그래서 나도 그 날 친구들을 데리고 저녁을 사주러 오뎅이식당을 갔습니다. (BGGO 0098)
それで私もその日友達をつれて夕食をご馳走しにオトゥギ食堂に行きました。

「가다」が目的を表す句と結びついた用例は16例あるが、その中に「-에 가다」と結びついた例が14例、「-를 가다」と結びついた例が2例で、「-에」が目的を表す句と結びつきやすい傾向を見せている。

ここで目的を表す句との結びつきの場合の語順について考えたい。「-에 가다」の場合は、(39)のように「(場所名詞) 에+目的+가다」の語順で現れやすい。14例の内10例がこの語順を取っている。

それに対して、「-를 가다」の場合は、(40)のように、「目的+(場所名詞) 를+가다」の語順を取っている。もし、(40)の語順を次の(40)'のように「(場所名詞) 를+目的+가다」に換えると、不自然さを

感じる。

- (40)' ?? 오뚝이식당을 저녁을 사주러 갔습니다.
オトゥギ食堂に夕食をご馳走しに行きました。

これは、次のように(39)の文の「-에」を「-를」に換えてみても確認できる。

- (39)' ?? ~ 서울대 병원을 피 팔러 가는 사내들
ソウル大学病院に血を売りに行く男たち
(39)" 피 팔러 서울대 병원을 가는 사내들
血を売りにソウル大学病院に行く男たち

(40)'と同じく「目的+(場所名詞)를+가다」の語順に替えた(39)"は自然な文になるが、(39)'の語順になると不自然な文になるか、別の意味合いを醸し出すことになるだろう。このような例から「-를 가다」は「-에 가다」と同様に目的を表す句と結びつくことができるが、その場合は、語順の制限があると思われる。

4.7. 「가 있다」形式と結びつく「-에」と「-를」

3.7.で確認したように、「-에」は「가 있다」の形式と結びつくと、位置変化した結果が継続される場所を表す。

- (41) 평산엔터테인먼트에서 펠레를 초청한다는 기사를 봤는데 우리가 브라질에 가 있는 동안 그를 인터뷰하고 싶다. (BGEO 0077)
平山エンタテインメントでペレを招待するという記事を見たけど、私たちがブラジルに行っている間にインタビューをしたい。

それに対して、「-를」の場合は、次の例文が見られる。

- (42) 누님이 셋에 형님 하나, 그리고 여동생. 그렇게 우리 형제는 여섯이었고, 둘째누님이 미국으로 이민을 가 있어서 한국에 살고 있는 형제는 다섯이었다. (Ce 000027)
姉が三人、兄が一人、そして妹。そのように私の兄弟は六人で、二番目の姉がアメリカへ移民に行っていて、韓国に住んでいる姉妹は五人だった。
- (43) 서울로 유학을 가 있다고 들었었는데, 전쟁이 터지는 바람에 학업을 중단한 채 그새 집에 돌아와 있었던 모양이었다. (7 BE 03006)
ソウルへ留学に行っていると聞いていたけど、戦争が勃発したせいで学業を中断したまま、その

間家に帰っていたようだった。

(42)と(43)の「-를」に現れた名詞は営為名詞であり、位置変化した結果が持続する場所は、(42)では「미국으로」, (43)では「서울로」のように「-로」で現れている。「가 있다」が「(場所名詞)를」と結びつく例は見つからないことから、「가 있다」は「(場所名詞)를」と結びつきにくいことが分かる。

4.8. ムード形式の側面からの「-에」と「-를」

「가다」が勧誘を表すムード形式の形を取る際には、次の例のように「-에」が現れ、「-를」は現れにくい。

- (44) 이 ○○년 놔두고 저하고 옛날처럼 같이 산에 갑시다. (BGAF 0052)
この○○女はおいといて、私と一緒に昔のように一緒に山に行きましょう。
- (45) 형님 오시는 거 봤다 캐서 왔소. 집에 갑시다. (2 BEXXX 01)
兄貴が来られるのを見たというから来たのよ。家に行きましょう。

上の例文の「산에」「집에」は「산을」「집을」に換えることは難しいだろう。また、「가다」が禁止のムード形式を取る場合も「-를」は現れにくい。

- (46) 너 다시는 그 집에 가지 마. (5 BE 02009)
お前、二度とあの家に行くな。
- (47) 개 돼지 팔러 장에 가지 마라, ~ (著者後略) (Ch 000095)
犬、豚を売りに市場に行くな。

このような例から、「가다」が「-를」と結びつく場合は、ムード形式の制限が見られることが分かる。

5. 終わりに

本稿の考察で明らかになったことを総括すると、次の通りである。

「-에 가다」と「-로 가다」について、実際の用例を考察した結果、次のような違いが見出された。

- 1) 「(場所名詞)에 가다」「(場所名詞)로 가다」の場合は、先行研究で言われているように、「-에」は到着点を表し、到着後の行為までも内包しているのに対して、「-로」は単なる移動を表すという意味があると思われるが、実際には同じく到着点を表す例として使われることが多い。
- 2) 先行研究でも言われているように、「-로 가다」に「方向・位置名詞」が多く現れる傾向はあ

るものの, 「-에 가다」にも「方向・位置名詞」が現れることがある。

- 3) 「団体名詞」が現れ, ある団体の一員になることを表す場合は, 「-에」が現れやすく, 「-로」は選択的な意味合いを表しやすい。
- 4) 目的を表す句と結びつく場合は, 「-로 가다」より「-에 가다」の方が多く使われる。
- 5) ある場所に着くための行き方を描写する際には, 「-로 가다」の方が多く使われる。
- 6) 位置変化の結果継続を表す「가 있다(行っている)」の形式は, 「-에」と結びつきやすいが, 「-로」とも結びつくことが出来る。

「-에」と「-를」について, 先行研究で「-에」は目標点を表し, 目標点がある方向を意味するが, 「-를」は方向性がないとしているように, 実際の用例を見ても, 「-를 가다」に「方向・位置名詞」が現れた例はない。しかし, 「-에 가다」と「-를 가다」は次のような違いも見出された。

- 1) 「営為名詞」は「-를 가다」とのみ結びつく。
「(営為名詞) 를 가다」が到着点を表す名詞句と結びつく場合, 「-로」と結びつきやすい。
- 2) 「場所名詞」と結びつく際に, 「-를 가다」より「-에 가다」の方に様々な場所名詞が現れる。
- 3) 「物名詞」は「-를 가다」とは結びつきにくい。
- 4) 目的を表す句との結びつきの場合, 「-에 가다」には制限がないが, 「-를 가다」の場合は語順の制限が見られる。
- 5) 「가 있다」の形式の場合, 「(場所名詞) 에」と結びつき, 位置変化した結果が継続される場所を表すが, 「(場所名詞) 를」とは結びつきにくいことから, 「(場所名詞) 를」との結びつきにはアスペクトの制限があると思われる。
- 6) 「가다」が勧誘や禁止のムード形式の形を取る場合, 「-에」とは結びつくが, 「-를」との結びつきは難しいという違いから, 「-를」との結びつきにはムードの制限があると思われる。

以上, 実際に言語資料に現れる「-에 가다」, 「-로 가다」, 「-를 가다」から, 現れる名詞の特徴のみならず, 構文的な特徴などを考察しつつ, その違いを見出した。しかし, それぞれの場合の例が少ない場合もあり, 考察が足りないところもあった。今後は, 更に例を増やし, 形態や統辞論的な観点からの考察が必要であると思われる。また, 日本語の「行く」との対照を通じて, それぞれの言語における現れ方の特徴を明らかにすることも必要であると思われる。

註

- (1) 「-로」, 「-으로」を合わせて, 「-로」と表記する。
- (2) 「-를」, 「-을」, 「-으」を合わせて, 「-를」と表記する。
- (3) 「車」などのように人の意志でコントロール出来るものも友情者として考え, 考察対象に入れる。
- (4) 人名詞が現れる「-한테」, 「-에게」, 「-께」は合わせて「-에게」と表記する。ちなみに「-에게」が10例, 「-한테」が1例, 「-께」が3例ある。

- (5) 「-에서」, 「-부터」, 「-까지」などである。
- (6) 場所名詞句が現れていない用例である。
- (7) 86例の内12例は経路を表す例であるが、本稿の考察から外し、74例のみを考察対象に入れる。
- (8) 1文に場所名詞句が2つ現れる用例が7例あるので、用例数は1,201例であるが、頻度の合計は1,208である。
- (9) 名詞の分類基準は、野間秀樹(1990)を参考している。
- (10) 本稿の韓国語の用例を日本語に訳す際に、「-로」も「-에」と同じく「~に」に訳するのが自然である場合があるという、日本語母語話者の指摘があった。今後、日本語との対照を通じて両言語における特徴を明らかにする必要があると思われる。

参考文献

- 강현화 (1998) “국어의 동사연결 구성에 대한 연구” 서울: 한국문화사
- 김용석 (1979) ‘목적어조사 “-을/를” 에 관하여’ “말” 4 서울: 연세대학교 한국어학당
- 국립국어연구원 (1979) “표준국어대사전” 서울: 국립국어연구원
- 남기심 (2002) “현대국어통사론” 서울: 태학사
- 노마히데키 [野間秀樹] (2002a) “한국어 어휘와 문법의 상관구조” 서울: 태학사
- 노마히데키 [野間秀樹] (2002b) ‘한국어 단어결합론의 심화를 위하여’ “국어학” 39 서울: 태학사
- 송석중 (1982) ‘조사 과, 를, 에의 의미분석’ “말” 7 서울: 연세대학교 한국어학당
- 연세대학교언어정보개발연구원 (1998) “연세한국어사전” 서울: 두산동아
- 우치야마 (1996) ‘이동을 나타내는 합성용언과 접속 구성에 대하여’ “冠嶽語文研究” 24 서울: 서울대학교국어국문학과
- 이남순 (1983) “에”와 “로”의 통사와 의미’ “언어” 8 서울: 한국언어학회
- 정희정 (1998) “에”를 중심으로 본 토씨의 의미’ “국어문법의 탐구IV” 서울: 태학사
- 홍재성 (1983) ‘이동동사와 행로의 보어’ “말” 8 서울: 연세대학교 한국어학당
- 홍재성 (1987) “현대 한국어 동사구문의 연구” 서울: 탑출판사
- 홍재성 외 (1997) “현대 한국어 동사구문 사전” 서울: 두산동아
- 安 垠 姫 (2007) 「単語結合論的観点から見た韓国語の『타다』と日本語の『乗る』—対照語彙論の構築のために—」『朝鮮學報』203 天理: 朝鮮学会
- 五十嵐孔一 (1997) 「原因・理由を表す接続形『-(아/어) 서』と『-(으) 니까』について—從属節の包含構造を中心に—」『朝鮮學報』162 天理: 朝鮮学会
- 梅田博之 (1971) 『現代朝鮮語基礎語彙集』 東京: アジア・アフリカ言語文化研究所 東京: 東京外国語大学
- 門脇誠一 (1997) 「現代朝鮮語の研究—文法以外の分野」『日本語と朝鮮語』日本語と外国語との対照研究IV 東京: くろしお出版
- 菅野裕臣 (1988) 『コスモス朝和辞典』 東京: 白水社
- 趙 義 成 (1994) 「現代朝鮮語の-에格について」『朝鮮學報』150 天理: 朝鮮学会
- 野間秀樹 (1990) 「現代韓国語の名詞分類—語彙論・文法論のために」『朝鮮學報』135 天理: 朝鮮学会
- 野間秀樹 (1994) 「現代朝鮮語の語彙分類の方法」『言語研究』IV 東京: 東京外国語大学
- 野間秀樹 (1997) 「朝鮮語の文の構造について」『日本語と朝鮮語の対照研究』IV 東京: くろしお出版